



2026年6月17日

広島県竹原市

中国電力ネットワーク株式会社

## 「空き家状況確認に関する共同検証の実施」について

広島県竹原市（市長：平井 明道、以下「竹原市」）と中国電力ネットワーク株式会社（本社：広島県広島市、代表取締役社長：長谷川 宏之、以下「中国電力ネットワーク」）は、全国的に社会問題となっている空き家問題への新たな対応として、中国電力ネットワークの保有するデータを活用した「空き家状況確認に関する共同検証」を実施します。

近年、竹原市では少子化や人口減少等により空き家が年々増加しています。空き家の実態把握の難しさが、地域資源の有効活用及び市民の安全確保を進めるうえで、今後、大きな問題に発展する可能性があります。

このような状況を踏まえ、中国電力ネットワークが配電設備の点検に使用している Mobile Mapping System<sup>※</sup>（モバイルマッピングシステム 以下「MMS」）のデータを活用し、竹原市の行う空き家の特定および劣化状況判定に必要な現地調査の効率化に向けた共同検証を実施します。

竹原市においては、本取り組みを通じて、空き家実態調査データを効率的に更新し、「[竹原市空き家等対策計画](#)」の実効性をより高めていきたいと考えています。

中国電力ネットワークにおいても、「中国電力ネットワークグループ経営ビジョン2040」で掲げる「地域との共創」の取り組みとして持続可能な地域社会への発展に貢献してまいりたいと考えています。

両者は、お互いが保有する知見や技術を活用し、本共同検証を通じて連携を深め、空き家問題をはじめとする地域課題の解決と地域活性化に向けたモデルケース創出を目指してまいります。

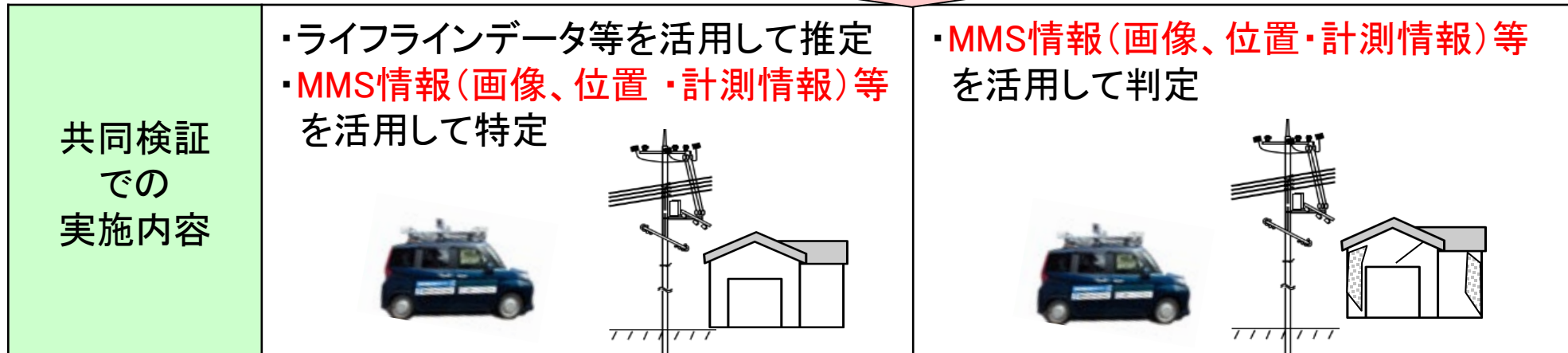
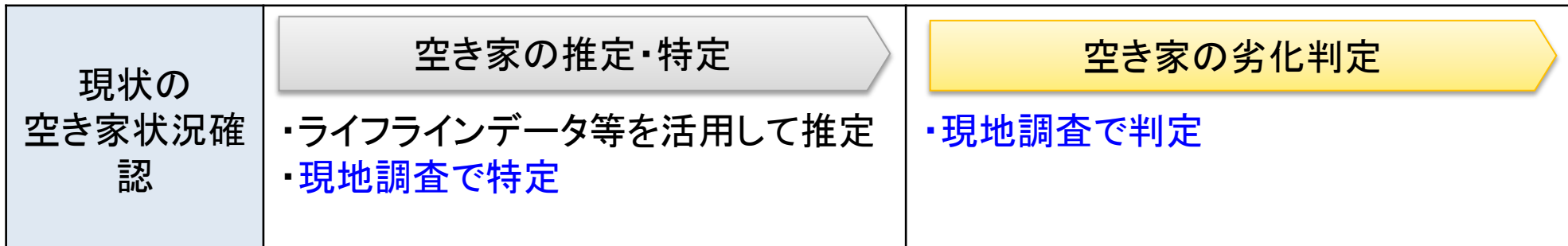
※ステレオカメラ、3次元レーザー計測器などの機器を車両に搭載し、走行しながら建物や設備などの3次元座標データを取得するシステム

（添付資料）

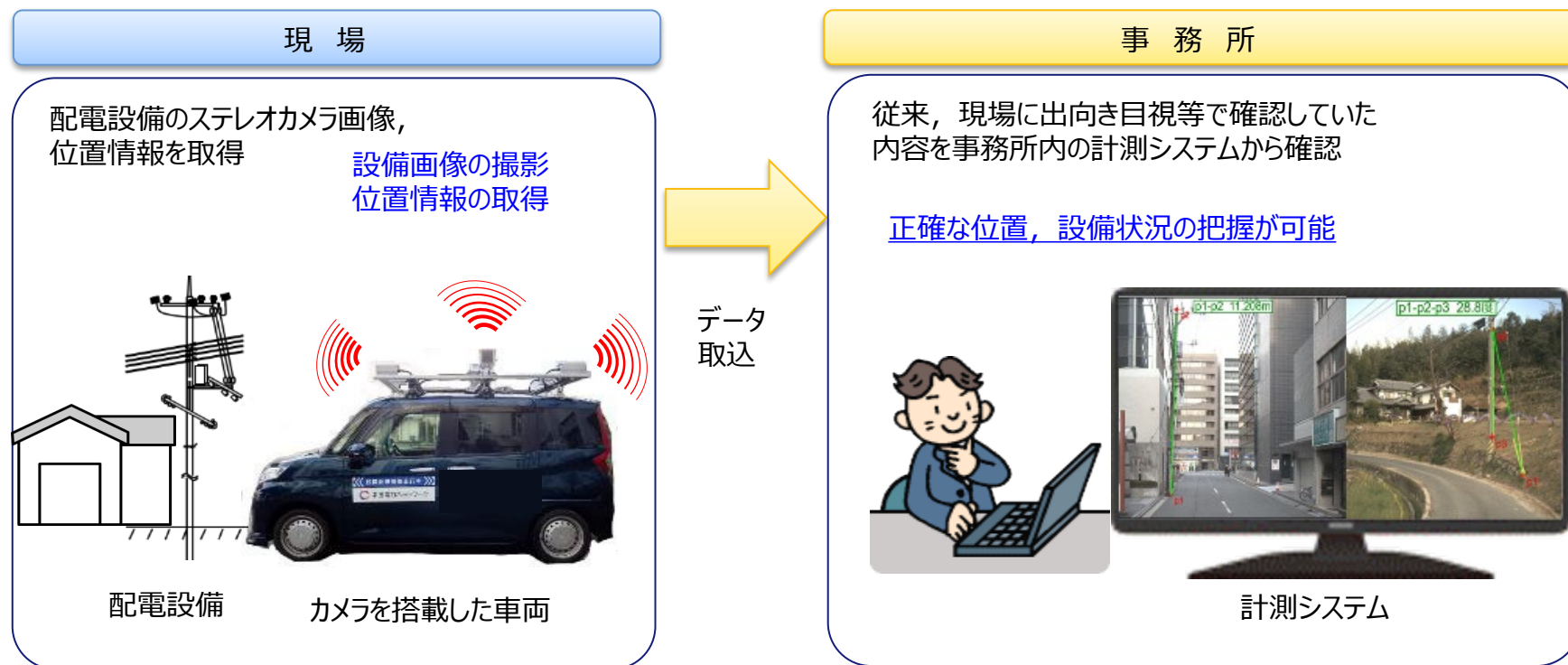
別紙： 共同検証の実施概要

○現在、ライフラインデータなど(電気・水道等)により空き家を推定したうえで、現地調査により空き家の特定、劣化状況の判定を行っています。

この現地調査に代えて、MMSで取得した設備周辺の建物の状況などの高精度な画像等のデータを活用することで効率化し、その精度を共同で確認します。



- 中国電力ネットワークでは、約200万本の電柱を維持・管理していますが、設備の状況や樹木との接近状況等を確認する必要があり、従来は現場での目視や測定機器等による点検を実施してきました。
- MMSでは設備情報をデジタル化することで、正確な位置情報や設備状況を把握します。机上での点検が可能となり、調査業務や点検業務を効率化しています。
- MMSで取得した高精度な画像等のデータから設備周辺の建物の状況を確認し、空き家の特定や破損・劣化の進行度、危険度などの判定を行い、その精度を検証します。



※MMSは、第8回(2024年度)インフラメンテナンス大賞「経済産業大臣賞」を受賞しています。